

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 海洋ハプト藻類のアルケノン合成経路の解明と基盤技術の開発
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名(研究機関名・職名は研究参加期間終了時点):

研究代表者

白岩 善博(筑波大学 名誉教授)

主たる共同研究者

該当なし(1年追加支援期間)

3. 事後評価結果

○評点:

A 優れている
---------

○総合評価コメント:

前年度までの成果として、アルケノン生産ハプト藻類株においては、形質転換技術はどうか、コロニー形成株も得られていなかった状況において、*Tisochrysis lutea*株で寒天上にコロニーを形成させることに成功し、作製した形質転換体のスクリーニングに不可欠な「形質転換細胞の単離」を可能とし、トランスクリプトーム解析とゲノム情報解読を進め、形質転換株作出に向けた基盤を確立してきた。そこで、平成28年度は、実用化など出口イメージを意識した内容に重点を置き研究を推進した。その結果、更なる高機能細胞株の開発と大量培養系確立によるバイオ燃料生産や水産飼料生産への開発への期待が高まった。

その他、領域内外の研究者、特に元さきがけ研究者との連携を深め、研究を相乗的、加速的に進めた点も評価される。また、特許出願などにも取り組みつつ、国際学会を通じて積極的に成果発表を展開している点も評価できる。今後は、実用化に向けた、研究成果の統合化等の取り組みの進展にも期待している。